

## 議会事務局長 部長マニフェスト

### 私の思い

#### 議会事務局長 山本 昌晴



議会事務局の活動視点は、常に住民目線を意識した「住民自治の根幹としての議会」をサポートすることにフォーカスしなければならない。議員による議会活動を、市民にわかりやすく伝えることから始まり、議会報告会等による市民から議員への意見要望等のフィードバックをはかり、問題発見、課題設定を共通認識し、議員間討議を経て政策形成を行い、議会等の場において、より市民感覚に沿った建設的な議論が展開されるよう次の方向でサポートしていく。

1. 議会活動を市民にわかりやすく伝えるため、市議会だよりの効果的な誌面の編集サポートやインターネットを使用し、本会議の録画配信をし、議会活動を紹介していく。議会報告会についても引き続きサポートしていく。
2. 平成 25 年度は改選時であるため、新たな議員も含め全議員対象に、改選後すみやかに議員研修を実施する。この研修を通じ、住民自治の実現に向けた議会の取組について、意識の醸成をサポートしていく。

次に、議会活動を保障する条件として、議員報酬、議員定数及び政務活動費（旧政務調査費）があるが、これらに対する住民の批判に対し、どう考えどう対応するかが問題である。議員報酬、議員定数及び政務活動費の額や用途及び運用基準については、議員一人一人が自らの政治責任において、主張すべき問題であり、過半数議員のコンセンサスの上で議論集約されるものであるが、政務活動費の用途の適正化については、議長に課せられた透明性の確保を事務補佐する上において、事務局職員が提案及び指摘することができる。昨今の判決では、住民目線に沿った用途基準が求められていることから、これを厳格化するよう案を提示し、併せて適正な用途について議長を通じ提言することとする。これにより、議会活動に対する住民の一層の信頼と理解を得られるよう図ってまいりたい。

## 重点目標

- ① 住民のためにがんばる議会をサポートするため、議会活動を市民にわかりやすく伝えることに努めることや議員の資質向上に向け議員研修を実施する。
- ② 議会活動に対する住民の一層の信頼と理解を得られるよう、市民目線に沿った政務活動費の使途基準の適正化とその運用に努める。

## 部の施策概要

市議会だより編集において、定例会の重要案件の概要や開催案内等の掲載に加え、読みやすく親しみやすい誌面づくりに向け、編集委員会の開催、協議をサポートし、限られた予算の中で誌面の充実に向けていく。

市議会の最新情報を周知するため、ホームページを更新し、本会議の録画配信を実施することにより、いつでも誰でもインターネットを通じ、議会の審議状況等を視聴していただき、より一層議会活動の理解に役立てていただけるよう、録画配信を安定的に継続的に実施していく。

議会の監視機能や政策提言活動など議会活動の状況を地域に出向いて市民に直接報告し、市政に関する情報提供に努め、併せて、議会活動に対する意見や市政に対する提言などを直接聴取する機会である議会報告会を支援していく。

平成 25 年度は議員の改選が行われるため、同時期に議員改選を行う羽曳野市と共同で、大学講師を招き、住民自治の実現に向けた議会の取組や総合計画を軸とした地域経営を担う議会のあり方等について、11 月を目途に議員研修を実施する。

平成 25 年 3 月 1 日、政務調査費から政務活動費に条例改正に伴い名称が変更されたことをきっかけに、これまでの政務調査費の使途等に関する判例や監査委員の意見を取り入れ、平成 25 年度から市民目線に沿った「政務活動費の使途及び運用基準」及び「柏原市議会政務活動費の使途に関する内規」の各案を作成し、各党派代表者等による政務活動費検討会で意見集約を図り、「柏原市議会政務活動費指針」として適正に運用していく。

## 重点課題 ①

住民のためにがんばる議会をサポートするため、議会活動を市民にわかりやすく伝えることに努めることや議員の資質向上に向け議員研修を実施する。

### 戦略課題の目標

議会が市民にとって信頼され、より身近な存在となるよう、開かれた議会親しみやすい議会を目指す。

地方分権の進展に伴い、議員の政策立案機能や監視機能の強化が必要になるため、議会の活性化や議会運営についてサポートしていく。

### 施策推進上の目標

議会活動を市民にわかりやすく伝えるため、市議会だよりの効果的な誌面の編集サポートやインターネットを使用し、本会議の録画配信をし、議会活動を紹介していく。議会報告会についても引き続きサポートしていく。

平成 25 年度は改選時であるため、新たな議員も含め全議員対象に、改選後すみやかに議員研修を実施する。この研修を通じ、住民自治の実現に向けた議会の取組について、意識の醸成をサポートしていく。

### アウトプット

政策サイクル（住民や地域の問題発見→議員要望・提案→政策形成→討議・議決→評価・監視）が活発になり、また、議決責任（議員の調査研究→議員間討議の充実）の明確化や説明責任の行使により市政への住民参加増が期待され、首長主導型（議会追認型）民主主義と並行し、住民参加型の 2 元代表制の民主主義を推進していく。

### アウトカム

アウトプットの性質上、数値・定量的目標の設定は困難であるが、一つの指標として、平成 24 年度における、定例会の傍聴人合計 147 名及び本会議録画映像配信によるアクセスログの合計 10,813 件の増を数値目標とする。

## 重点課題 ②

議会活動に対する住民の一層の信頼と理解を得られるよう、市民目線に沿った政務活動費の使途基準の適正化とその運用に努める。

### 戦略課題の目標

議員の調査研究活動は多岐にわたり、個々の経費の支出が調査研究に必要かどうかについては、議員の合理的な判断に委ねられる部分があるが、市議会における調査研究活動や陳情要請活動とは無関係な活動（政党活動、選挙活動、後援会活動、私人活動等）に要する経費は政務活動費にあたらないと解釈されている。個々の経費が使途基準に適合するか否かについては、制度の趣旨を踏まえ、当該運用基準や使途に関する内規を合目的に整備する必要がある。また、近年、政務調査（活動）費に関する住民訴訟や監査請求も多く、当該費の適正な執行を担保するためにも、早急な整備が求められるところである。

### 施策推進上の目標

平成 25 年 3 月 1 日、政務調査費から政務活動費に条例改正に伴い名称が変更されたことをきっかけに、これまでの政務調査費の使途等に関する判例や監査委員の意見を取り入れ、市民目線に沿った「政務活動費の使途及び運用基準」及び「柏原市議会政務活動費の使途に関する内規（一部削除、追加の外、申し合わせ 23 項目の新規追加等）」の各案を作成する。

各会派代表者等による政務活動費検討会を開催し、意見調整を図りつつ、当該使途及び運用基準や内規の成案を得られるよう説明し、各会派の議論の集約をはかる。なお、本案は平成 25 年 4 月 1 日からの遡及適用とする。最終的に「柏原市議会政務活動費指針」として 9 月改選後議員に配布し、その後適正に運用していく。

## アウトプット

これまでの定期・行政監査においても、「支出の手順や領収書の添付の有無等、公金の取扱については、概ね適正であると認められた。」と結果報告を受けているが、さらに経済性・効率性・有効性の観点から、また一番重要な市民目線からの厳しいご指摘を受けたいよう、政務活動費の適正な支出に各会派等が努めていただくことが期待できる。

公金の最小限の費用で最大の政務活動効果が現れることが期待できる。例えば、管内管外視察の調査内容において、これまで以上に、本会議や委員会において、より良い行政効果が生まれるような意見・要望等が出されたり、IT機器を用いた議会報告会等の開催により、一層わかりやすい説明が可能になったり、政務活動費の市民への還元が期待できる。

## アウトカム

アウトプットの性質上、数値・定量的目標の設定は極めて困難である。